

「大学トップマネジメントフォーラム2015」に参加

3月1日(日)に、朝日新聞社主催の「大学トップマネジメントフォーラム2015」(会場：丸ビルホール)が行われ、本学からは酒井正三郎総長・学長がパネリストとして出席しました。本学の参加は前回の2011年12月から、約3年ぶりとなりました。

本フォーラムは11回目をむかえますが、開催日である3月1日が就職活動解禁日ということもあり、「社会の要請にこたえて進化する大学教育と人材育成」がテーマでした。プログラムは、2部構成となっており、第1部では、株式会社ニッチモ代表取締役の海老原嗣生氏による「産業界と大学の新しい関係」をタイトルにした、日本の大学が抱えるグローバル化の問題や今後の大学教育のあり方についての基調講演が行われました。

第2部では、「学生を社会につなぐ教育とは」、「大学改革をどのように進めているか」について、6大学(中央大学、



パネルディスカッションに出席する酒井正三郎総長・学長ほか慶応大、上智大、法政大、明治大、早大の総長、学長ら

慶應義塾大学、上智大学、法政大学、明治大学、早稲田大学)の学長、総長によるパネルディスカッションが行われ、グローバル対応、教育改革など各大学の取り組みだけでなく、現在話題となっている大学の入試改革についても、私立大学の独自性、大学間での協力といった発言がありました。

主催となる朝日新聞社の担当によれば、300名募集のところ、約700名の応募があったとことで、当日の会場は満席となり、約20名の方はロビーのモニターで視聴している状況でした。

当日の状況につきましては、3月24日の朝日新聞朝刊に掲載されました。

「HeforShe」—女性や少女に対する暴力、差別をなくし、ジェンダー平等を達成する—

中央大学は、2010年から国連と高等教育機関を結びつける国際的取り組みである「アカデミック・インパクト(Academic Impact /AI)」に参画しています。2010年以降、国連が提唱するアカデミック・インパクト・イニシアチブに示される10の原則に順次取り組み、国際貢献を重ねてきました。とくに本学は「国連アカデミック・インパクト(UNAI)」の日本における幹事校であり、その原則(原則3:性別、人種、宗教、民族を問わず、すべての人に教育の機会を提供する、原則4:高等教育に必要とされるスキル、知識を習得する機会をすべての人に提供する、原則10:異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く)に基づいた国際貢献も期待されています。2012年には、リオ+20「国連持続可能な開発会議:私たちが望む未来」に向け、「Chuo University

Rio+20 Sustainability Initiative」を宣言し、2014年には、「国際ガールズデー・国連デー・人権デー・国際家族農業年記念」を開催しました。

そして、2015年は、国連機関「UN Women」による「HeforShe」キャンペーン(本年9月まで)に参画し、国連アカデミック・インパクト活動の一環として本学教職員をはじめ、学生、OBにご協力をいただき次の取り組みを行います。その「HeforShe」キャンペーンとは、女性や少女に対する暴力、差別をなくし、

ジェンダー平等を達成するという社会変革に向けて、男性が賛同とコミットメントを表明するキャンペーンです。



本学における取り組み

- i) 本学公式Webサイトに学長から国連アカデミック・インパクト活動に関するメッセージを掲載する。
- ii) 7~8月をキャンペーン月間とし、国連機関「UN Women」Webサイト(<http://www.heforshe.org/#take-action>にアクセス)を通じて、本学教職員、学生、OBの男性による賛同を得るための活動を行う。
- iii) 講演会を開催する。(後楽園キャンパス)
- iv) 学生によるキャンペーン活動を積極的に支援する。

商学部・渡辺岳夫教授、インターンシップ演習「サッカークラブ経営チャレンジ講座」に元日本代表の岡野雅行氏が講演

東京23区内に「リーグのチームを創りたい。いずれはFCバルセロナのような総合的なスポーツクラブを目指したい。そんなとつともなく大きな夢を持つ、とても小さなサッカークラブがあります。東京23FCというクラブです。商学部のインターンシップ渡辺ゼミの学生たちは、その夢の実現を応援するために、23FCの経営にチャレンジします。具体的には、9月12日のホームゲームで、普段ならサポーター数が1,000人程度のところ、5,000人の集客を目指すというものです。その実現のためには、学生たちはFC経営についてさまざまなことを学ばなければならないわけですが、その一環として、ガイナレ鳥取のジェネラルマネージャーとしてFC経営に携わる、元サッカー日本代表選手の岡野雅行氏にご講演をお願いしました。

岡野氏は「野人」と称されたバイタリティそのままに、独創的なプロジェクトを次々と実施されておられます。

そのひとつに、チームの強化資金獲得のための「野人と漁師のツートッププロジェクト」があります。これは、1口5,000円の寄付を広く募り、2口以上寄付してくれた方には、鳥取の境港産の5,000円相当の海産物が贈られる、というプロジェクトです。最終的に5,296口、2,648万円が集まったそうです。そして、さらにその第二弾として位置づけられた「野人のまじめな地方創生案：野人と漁師のチームとつとプロジェクト！」も大成功したそうです。これらのプロジェクトを通じて得られた資金によって、外国人選手など優れた選手を獲得したりして、チームの強化に役立てられているそうです。



軽快なトークで会場を沸かせる岡野氏

質疑応答では、小さなサッカークラブがどのようにすれば生き残っていけるのか、チームの魅力を高めていくにはどのようにすればよいのか等、たくさんの質問が出されました。岡野氏は、そのひとつひとつに丁寧かつユニークにお答えいただきました。これから、ガイナレ鳥取の戦績がとても気になることになりそうです。

「さらなる飛躍を目指して」学生アスリートたちが集結

2015年3月31日(火)、学生アスリートたちの日頃の地道な努力や活動にエールを贈るとともに、競技と学修の両立を実践し、充実した学生生活を送ることを願い、「学生アスリートガイダンス」を開催しました。ガイダンスでは、学業、スポーツへの取り組みについてや、日々の生活で注意すべき点などの説明がありました。

当日は、満開の桜に囲まれた多摩キャンパス9号館クレセント・ホールに、約850名の学生アスリートと、酒井学長をはじめとする約50名の教職員が集い、盛会となりました。

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、スポーツそのものはもちろん、大学スポーツの社会的関心がいっそう高まっている今、これからも中央大学は夢や目標に向かって頂点を目指し、挑戦する学生アスリートを応援していきます。



参加後に寄せられた学生からの声

- どこまでも謙虚で、素直になることが大切である
- 大学の体連生に対する熱い気持ちが伝わり、頑張ろうと思った
- 5つの心「素直」「反省」「謙虚」「奉仕」「感謝」を忘れない
- 自分に関わってくれている人すべてに感謝して生活したい
- 引退し競技をしなくても人として誰からも尊敬される人になりたい
- 強さだけを求めるのではなく、礼儀と感謝の心を持続けていきたい
- これから、徳を積んで、運を掴みたい